

冬に目立つスズカケノキ

街の紅葉の季節が終わる頃、富山市役所横の松川右岸にある一本の大木が、ちょっと変わった実をつけます。その実は、あたかも枝に鈴が1個または2個ずつぶらさがっているように見えます(図1)。植物の名前は、モミジバズカケノキ。葉の形は、まさにモミジ型です。

スズカケノキという名前は、この果実の形が、山伏が首からかける「鈴懸」に似ているところからつけられたといわれています。このような形の果実をつける植物は、プラタナスの仲間の特徴で、富山市内にはこのほかに、スズカケノキが植えられています。両者は似ていますが、スズカケノキの果実は直径約2.5cmで鈴は3~7個つくのに対して、モミジバズカケノキでは直径4cm弱で1~3個つくので見分けられます。



図1. モミジバズカケノキ

果実の中身

この果実は、秋になってから急にできたものではありません。夏頃から少しずつ生長してきていたのですが、その時期には葉と同じ緑色をしていたために、あまり目立ちませんでした。ところが、紅葉した葉が落ちると、枝にぶら下がっている果実が、がぜん目立ってくきます。この果実は、冬の間中ずっと枝について風にゆれています。ときどき強風に振り落とされたものが地面に落ちていきますので、一つ拾って観察してみるとにしましょう。

果実は、小さめのクリのイガのようになっています。とげを一つつま

んでひっぱると、1cm程の細長いものがズボッと抜けてきます。この抜けたものが、1個の果実です（そう果と呼ばれます。図1左下）。これは、タンポポの果実であるらかさん1個にあたります。そう果の中には1個の種子が入っています。丸い果実を二つに割ってみると、中は空洞になっています。モミジバズカケノキの丸い果実は、たくさんの小さな果実が集まったものであることが分かります。

葉っぱも変わってる

葉にも、少々変わったところがあります。落ち葉を拾って観察してみました。葉の柄の元を見ると、幅が広く中が空洞になっていて、何かにかぶさっていたことをうかがわせます（図2）。

これは、来年伸び出す芽にかぶさっていたのです。夏の間、芽を守っていたと考えられます。木の下をよくさがすと、枝ごと落ちているものも見つかりますので、確かめてみましょう。

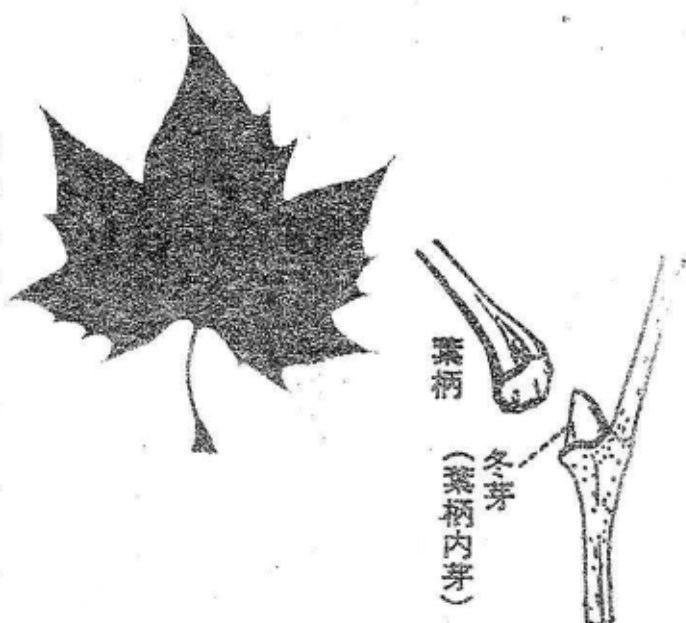


図2. モミジバズカケノキの葉柄と冬芽

冬は、私たちの手の届かない高いところにあった葉や果実が地面に落ちてくるので、何か変わったものを拾うチャンスです。小春日和の陽の下で、面白い形をさがしてみたいかがですか。（太田道人）

図1：牧野新日本植物図鑑（北隆館，1988）。図2：図解植物観察事典（地人書館，1982）より



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1-8-31

TEL (0764) 91-2123 (代表)

平成6年12月1日